

日蓮大聖人御書全集

ときどのごへんじ

富木殿御返事

しよてんかご

ゆえん

こと

（諸天加護なき所以の事）

新版

1292

く

1293

ときどのごへんじ

しよてんかご

ゆえん

こと

富木殿御返事

(諸天加護なき所以の事)

ぶんえい

ねん

がつ

にち

文永9年('72) 4月10日

51歳

さい

ときじょうにん

富木常忍

ごへんじ

御返事

にちれん

日蓮

がもく いんずう

た

そうら

お

おんこころざしもう

つ

鵜目、員数のごとく給び候い了わんぬ。

御志申し遂く

がた そうろう

し難く候。

ほうもん

せんど

しじょうさぶろうざえもののじょうどの

しよじ

法門のこと、先度、四条三郎左衛門尉殿に書持せしむ。

しよ よ よ ごらん

きょうもん

かんが

み

その書、能く能く御覧あるべし。ほぼ経文を勘え見るに、

にちれん

ほけきよう

ぎようじや

うたが

いま

てん

日蓮、法華経の行者たること疑いなきか。ただし、今に天

かご こうむ いち しよてんぜんじん あつこく さ ゆえ
の加護を蒙らざるは、一には、諸天善神この悪国を去る故

に ぜんじん ほうみ あじ ゆえ いこうせいりよくな
か。二には、善神、法味を味わざるが故に威光勢力無き

さん だいあつき さんるい しんちゆう い ぼんてん たいしやく ちから
か。三には、大悪鬼、三類の心中に入り、梵天・帝釈も力
およ とう いちいち しょうもん どうり お しん そうろう

及ばざるか等、一々の証文・道理、追つて進ぜしむべく候。

しょうがい もと おも き お いま ひるがえ
ただし、生涯、本より思い切り了わんぬ。今に翻反るこ
な うえ いこん な もろもろ あくにん ぜんちしき

と無く、その上また遺恨無し。諸の悪人はまた善知識な

しょうじゆ しゃくぶく にぎ ぶつせつ よ しきよく
り。摂受・折伏の二義、仏説に任る。あえて私曲にあら

ばんじ りようぜんじようど ご きようきようきんげん
ず。万事、靈山浄土を期す。恐々謹言。

うづきとおか

卯月十日

にちれん

かおう

日蓮

花押

ときどの

土木殿

にちれん

りんじゆういちぶん

うたが

こうべ

は

とき

日蓮が臨終一分も疑いなし。

頭を刎ねらるるの時は

こと

きえつあ

そうろう

だいぞく

あ

だいどく

ほうしゆ

か

殊に喜悦有るべく候。

大賊に値つて大毒を宝珠に易うと

おも

思ふべきか。